

慢性膵炎に対する六君子湯の効果

南越谷健身会クリニック(埼玉県) 周東 寛、周東 佑樹

慢性膵炎の治療は食事療法、蛋白分解酵素阻害剤、制酸剤、酸分泌抑制剤などが用いられるが、必ずしも有効でないことが経験される。今回は西洋医学の治療で改善されない慢性膵炎患者15例に六君子湯を西洋薬に併用あるいは単独療法を行い、その効果を検討した。六君子湯を1ヵ月以上投与したところ、血清リパーゼおよび血清トリプシンは有意に改善し、自覚症状の改善も認められた。以上の結果から西洋薬治療に抵抗性を示す慢性膵炎に対して六君子湯は有効であると考えられた。

Keywords 慢性膵炎、六君子湯、血清リパーゼ、血清トリプシン

はじめに

慢性膵炎は、膵臓の持続的な炎症により細胞浸潤や膵実質の脱落、膵の線維化などが生じ、進行すると膵外分泌や内分泌機能の低下を伴う非可逆的に進行する疾患である¹⁾。進行すると消化吸収障害や内分泌機能の低下による糖代謝障害が出現するほか、罹病期間の長期化に伴い膵がん発症の危険性が高まる²⁾。慢性膵炎は、生命予後の悪い疾患であることから、早期に診断し慎重に経過観察する必要がある。慢性膵炎の成因は、アルコール性が67.5%、特発性が20.6%、胆石性が3.0%と報告されている³⁾。慢性膵炎の主な症状は、血・尿中の膵酵素上昇を伴う上腹部痛や腰背部痛などの疼痛であり、下痢、悪心・嘔吐、腹部膨満感、食欲不振や全身倦怠感などがみられる場合がある。疼痛に対する薬物治療は、蛋白分解酵素阻害剤をはじめ鎮痙剤、鎮痛剤、制酸剤、酸分泌抑制剤などが投与されるが、必ずしも有効でないことも経験され、繰り返す疼痛は患者QOLを著しく損なう。よって、従来の西洋医学的治療に加えて漢方薬などを適用することで治療成績の向上が期待される。

漢方医学で慢性膵炎は、五臓六腑に膵という概念は存在しないが、膵臓の内分泌機能は「腎」、外分泌機能は「脾」の機能の中に包括され、おおむね脾の疾病と考えられている⁴⁾。六君子湯は、効能・効果が「胃腸の弱いもので、食欲がなく、みぞおちがつかえ、疲れやすく、貧血性で手足が冷えやすいものの次の諸症：胃炎、胃アトニー、胃下垂、消化不良、食欲不振、胃痛、嘔吐」であり、脾の機能を改善する代表的な漢方薬の一つである。今回は西洋医学的治療で改善されない慢性膵炎患者を対象に、自覚症状と血清膵酵素値を指標に六君子湯の効果を検討した。

対象と方法

2014年1月以降に当院を外来受診した上腹部痛あるいは背部痛を主訴とし、血清膵酵素学的検査(血清リパーゼ、血清トリプシン)や画像検査から慢性膵炎と診断され、食事療法やカモスタットメシル酸塩(100mg、6錠、分3)を投与するも改善されない患者を対象に、クラシエ六君子湯エキス(KB-43) 6g/日(分2)をカモスタットメシル酸塩に併用あるいは切り替えて投与し、投与後1ヵ月以上経過した時点で評価した。なお、従来から使用している他の西洋薬は継続使用とした。

評価項目は、血清リパーゼ(基準値：13~49IU/L)、血清トリプシン(基準値：100~550ng/mL)および自覚症状(腹痛、背部痛、食欲不振、便秘、下痢)の改善度(改善、やや改善、不変、悪化の4段階)とした。統計解析は、paired t-testに従った。なお、試験開始に先立ち全例で試験参加の口頭同意を得た。

結 果

1. 患者背景と六君子湯の投与期間(表)

対象患者は15例であり、性別は男性6例、女性9例、平均年齢は70.5±10.7歳であった。合併症は高LDL-C血症1例、低HDL-C血症1例、高TG血症5例、高尿酸血症1例、糖尿病(疑いを含む)4例であった。六君子湯の投与期間は、3.0±1.8ヵ月(平均±SD)であった。

2. 血清膵酵素学的検査

1) 血清リパーゼに対する六君子湯の効果

血清リパーゼの推移を図1に示した。投与前に60.4±22.1IU/L(n=15)であったが、投与後は52.0±13.0IU/L

(n=15)と有意に低下した(p<0.05)。投与前に基準値以上を示した9例では 72.0 ± 21.5 IU/Lが 59.6 ± 10.0 IU/Lに有意に低下した(p<0.05)。投与前に基準値内であった6例中1例は投与後に基準値以上になり、他の5例は基準値内を推移した。

2) 血清トリプシンに対する六君子湯の効果

血清トリプシンの推移を図2に示した。全例が試験開始前は基準値以上であった。投与前に 799.3 ± 237.0 ng/mLであったが、投与後は 653.9 ± 145.3 ng/mLと有意に低下した(p<0.01)。個々の患者では、15例中1例は基準値内に低下した。

表 患者背景と六君子湯の投与期間

性 別	男性 6例 女性 9例
年齢(歳)	70.5±10.7
合併症	高LDL-C血症 1例 低HDL-C血症 1例 高TG血症 5例 高尿酸血症 1例 糖尿病(疑いを含む) 4例
六君子湯の投与期間	平均±SD 3.0±1.8ヵ月

図1 血清リパーゼに対する六君子湯の効果

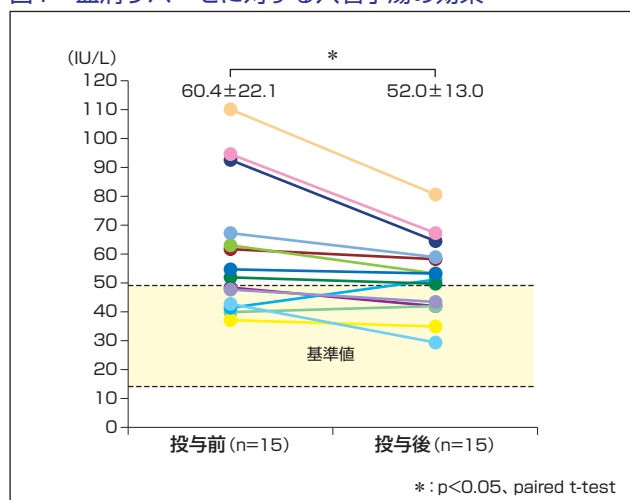
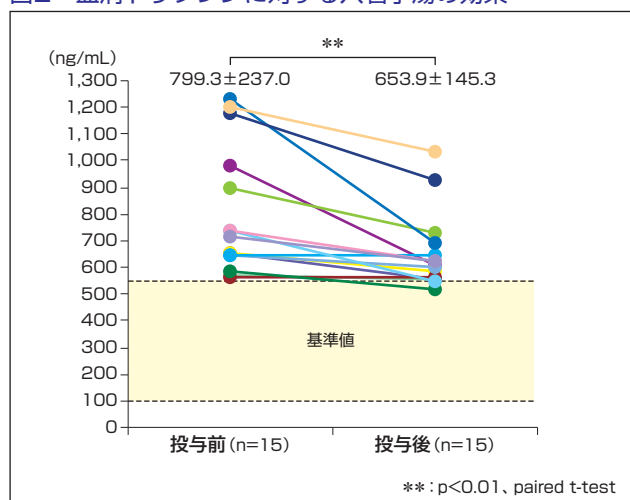


図2 血清トリプシンに対する六君子湯の効果



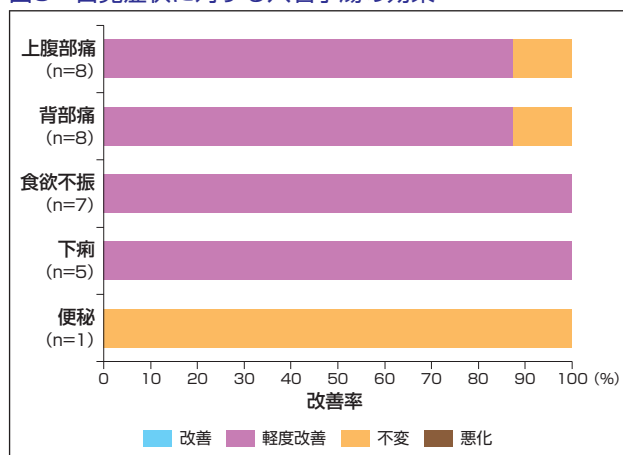
3. 自覚症状に対する六君子湯の効果

自覚症状に対する六君子湯の改善効果を図3に示した。上腹部痛(8例)、背部痛(8例)はいずれも7例で軽度改善を示し、食欲不振(7例)、下痢(5例)は全例で軽度改善が認められた。1例に便秘が認められたが、不変であった。

4. 安全性

六君子湯に起因すると考えられる有害事象は認められなかった。

図3 自覚症状に対する六君子湯の効果



まとめ

西洋医学的治療で改善されない慢性肝炎患者を対象に、六君子湯の効果を検討した。その結果、血清リパーゼおよび血清トリプシンで有意な低下が認められ、自覚症状の改善も認められた。

六君子湯は脾の機能を立て直すことで効果を示したと考えられ、西洋医学的治療に抵抗性を示す慢性肝炎に対して六君子湯は有効であり、治療選択肢の一つになり得ることが示唆された。

なお、慢性肝炎の治療にあたっては、服薬とともに頻繁に少量の水を服用することによってファーター乳頭を洗浄し、主膵管への逆流を防ぐことも重要と思われる。

【参考文献】

- 1) 乾 和郎 ほか: 慢性肝炎の病態と合併症. 臨床と研究 87: 1380-1383, 2010
- 2) 西森 功 ほか: 疫学調査に基づいたわが国の慢性肝炎の実態. 胆と膵 30: 1339-1342, 2009
- 3) 大槻 真 ほか: 慢性肝炎の全国疫学調査. 厚生労働科学研究費補助金難治性肝疾患に関する調査研究 平成14年度～16年度総合研究報告書: 125-129, 2005
- 4) 高山宏世 編著: 弁証図解漢方の基礎と臨床. 日本漢方振興会漢方三考塾(東京): 327-330, 2003